＜報道関係各位＞

2021 年 10 月 20 日
大阪経済大学

人間科学部・若吉浩二教授が
大阪市長居障がい者スポーツセンターと共同研究を実施

水中バランス研究から生まれた練習用具「スイムバランサー」で肢体不自由者の水泳指導法確立へ
2023 年夏に指導マニュアル完成を目指す

大阪経済大学（学長：山本俊一郎／所在：大阪市東淀川区大隅 2-2-8）は、人間科学部・若吉浩二教授が研究を進めてきた水泳練習用具「スイムバランサー」を活用して肢体不自由者の水泳指導法の確立を目指し、大阪市長居障がい者スポーツセンター（運営:社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会）との共同研究を 2021 年 8 月より実施中です。

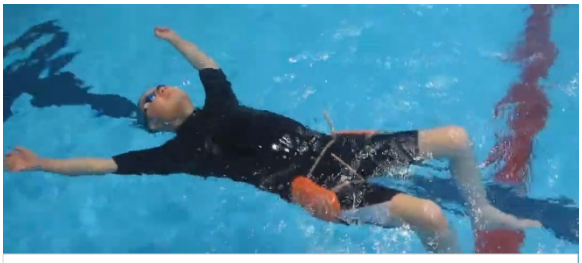
スイムバランサー立体タイプ
現在テスト運用中（特許・意匠出願中）

ロサンゼルス五輪・水球日本代表選手として出場経験を持つ若吉教授は、「国民皆泳（こくみんかいえい）」による安全水泳と健康づくりを目標に掲げ、水泳時の水中バランスの測定評価の研究を行ってきました。呼吸をしながら浮心と重心がどう変わるか、泳ぎにどう影響するのかを世界で初めて測定し、これをもとに 2010 年に山本化学工業と共同開発で有浮力練習用水着「ゼロポジション」を開発しました。

さらに欠損や麻痺を抱える人の水中バランス研究をとおして、水泳が苦手な方や、肢体不自由者にも水泳を楽しんでもらうことを　目的に 2020 年 8 月に誕生したのが、腰の左右側面に装着して水中でバランスを取り身体を水平姿勢に維持する「スイムバランサー」です。

水泳練習用具「スイムバランサー」は、若吉教授の研究をもとに住友ゴム工業が製品化※1 しました。体の浮心と重心のずれ幅を減らすことで、水中で沈みがちになる下半身の浮力を補う「スイムバランサー」の装着により、泳者は安定した水平姿勢を取ることができるようになります。2020 年 10 月からは、日本身体障がい者水泳連盟がパラリンピックを目指す選手の練習にも導入されました。

※1. 本リリースに掲載の「立体タイプ」は現在テスト運用中



スイムバランサー立体タイプ（装着時）

今回の共同研究では、大阪市長居障がい者スポーツセンターの指導員の皆さんの協力を得て、同スポーツセンターにて、肢体不自由者（脳原性麻痺および頚髄損傷による四肢体幹麻痺の２名）、さらには知的障がい児を対象にスイムバランサーを活用して、随時、水泳指導が行われています。そして、障がいに応じた水泳指導法について研究し、2023 年夏を目標に指導マニュアルの完成を目指します。

水平姿勢を上手く保つことでより速く、または楽に泳ぐことができます。水中バランスを取ることが困難な肢体不自由者が「スイムバランサー」を腰に装着することで、水平浮き身姿勢や背浮き姿勢、さらには息継ぎを、より安全に効率的に習得できると考えています。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
大阪経済大学　経営企画部広報課　高濱・白神　℡：06 - 6328 - 2431　Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp
大阪経済大学 広報デスク（ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ･ﾎﾞｰﾄ内）福嶋・山村　℡：06 - 4391 - 7156
https://www.osaka-ue.ac.jp